

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第99版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

主体性の可視化

東京都杉並区にある佼成育子園様にお伺いしました。保護者へどのように保育の専門性や育ちの豊かさをお伝えしているのかをお聴きすると、園内に掲示しているドキュメンテーションを見せて頂きました。

子どもたちが自ら主体的に活動しているシーンを写真で収め、その写真と子どもたちの声やエピソード、先生の気づき、そしてそれがら領域のどの部分の発達についてなのかということがとても分かりやすく書かれていました。

実践に対する想いをお聴きすると、「子どものつばやきや子どもの気づきを発信するだけでなく、『僕らがどう気付いたか』を発信するのが専門性だと思っんです。それぞれの先生の気づきや感じたことを発信していくことで保護者の方々にも、それぞれの先生の

個性が伝わる。専門性が伝わる。ドキュメンテーションを行うと、保護者に保育の深さを感してもらいやすく、保育園に参画してもらいやすくなるんです。」と教えてくださいました。また同じ子どもの主体性を見ている、先生によってはその育ちを「食事」の発達から切り取ったり、「人間関係」から切り取ったりと、それぞれの先生方のまなざしの切り取り方も学び合えるのが面白いということも教えて頂きました。

子どもの育ちの「何」を可視化していくのかと考えたとき、「主体性」を可視化するという環境が与える影響を教えてくださいました。

人間関係



「終わったら貰ってくれないかな?」
「・・・いいよ」

保育園で子どもと先生が遊ぶ様子。子どもが先生に玩具を渡す様子。

子どもの「主体性」を切り取り「保育」で語る先生方のまなざしが保護者や他の先生方に広まります。

学び合い

茨城県にある大宝保育園様は、以前から「見守る保育」を実践されてきましたが、子どもに対してだけでなく職員同士も見守り合う関係が深まっていくようにと、約三年前から『円対話(※)』の実践に取り組んで来られました。

敷地内には学童クラブも併設されているため、保育園と学童の先生が一緒になって子どもとの関わりから自分たちを振り返り、お互いの気づきを共有し学び合っています。

先日、そんな園の風土づくりをメインで担当している先生方と振り返りを行った際、ある学童の先生が、この三年間の学童クラブの変化を次のようにお話し下さいました。

「保育士さんと一緒に『円対話』を行ってきたことにより、学童でも指導ではなく見守るという意識で関わるようになり、子どもの見え方が変

わって来たんです。学童は年齢が大きい分、友人同士や家庭のことなど、保育園とは違う問題も沢山ありますが、それでも子どもたちの声をしっかりと聴いてみたり、子どもへの気持ちに寄り添ってから行動してみたりと、職員の行動や言葉かけが変わっていくと、自然と子どもたちの姿も変わってきました。改めて、私たちが変わる子どもも変わる、逆にこちらがギスギスすると子どもたちもギスギスしてくることを実感しています。」

実践からお話される先生方のお姿から、改めて園様が積み上げてきた実践の大きさを感させていただきました。



【一円対話】(※)
職員同士が情報伝達ではなく心の対話が出来るようにし、「傾聴・共感・受容・感謝」の姿勢を作れる仕組みです。

数に親しむ

本誌第97版に引き続き臥竜塾年間講座についてです。「文字・数・科学」について学んでいく年間講座で、今回は「数」に焦点を当て講座が行われました。

新宿せいが子ども園での事例紹介の中で、こんな例題が出題されました。(左図)「散歩中で蟻と出会ったら、2歳児に何と声を掛けますか?」から7まで数えますか?」続けて、「2歳の子には1匹、2匹、3匹、いっぱいだね!と子どもたちの発達を理解して伝えることが大事です」と言われました。

また、給食会議で子どもたちに「何本」という言い方ができるようにと、ぎゅつりは刻むのではなく、スティック状にすることで数を数えられるようにしよう、調理からもアプローチがあったと言います。他にも様々な実践事例の紹介がありました。

介がりましたが、講座を担当した本多先生は、「先生の知っている知識を教えることも大事なことです。一緒に子どもたちと不思議がることも大切なことです。」と仰っていました。

好きな先生の授業だけ高得点が採れる不思議な方程式があるように、普段の何気ない生活の中で数に親しむ機会がこれだけ多く溢れていることを講座から感じました。

園全体で取り組む先生方のように、私たちも一丸となつて、子どもたちにできることを尽くしていきたいと思えます。

お散歩先で...



【お散歩先でアリに遭遇】
子どもたちに何と声を掛けるでしょうか?

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。



※インターネットを使い、顔を見て会話ができるツールです。表情も見られることで身近に感じることができ、打合せもはかどります♪

十月に入り、やっと秋らしさが増してきたこの頃ですが、今年もお客様へ送りするクリスマスカードの準備を進めています。先日イラストレーターの方と打合せを行うことになり、いつもはカグヤへご来社頂き打合せを行っていましたが、その方は第二子を出産されたばかりということで、まだ小さいお子さん

進化を続ける関係

が二人いらつしやいます。そこで今回は初の試みとして、スカイプ(※)を繋いで打合せをしてみることになりました。折々ご自宅のお子さんやご主人が映り込みながら、近況を報告し合い、打ち合わせを進めます。

イラストレーターさんとはもう十年以上のお付き合いですが、こうして取り巻く環境や状況が変わっても一緒に取り組み続けられることは有難いことですし、試行錯誤を重ねながら思い出や歴史が増えていくことが面白くもあります。できないことよりもできる方法を生み出し、楽しみながら進化を続ける関係でありたいと思います。



天気にも恵まれ、稲刈り日和!



蛙やバッタ、トンボやサギなど沢山の生き物と出逢えます!



ジャンボタニシが、なぜか草だけを食べてくれています。



毎年、お米作りを通して少しずつ仲間が増えています。

千葉県の藤崎農場さまにてお米作りのお手伝いをさせて頂き今年で4年。5月に田植えを行った稲が今年も無事に実り、先月皆で稲刈りを行いました。こちらは生き物いっぱい無農薬耕さないのが特徴の田んぼ。お米を食べるために農薬を使えば、他の生き物を排除することにもなる中で、藤崎農場さまのようにお米だけでなくお米の周りも一緒に育てているというのは「自分だけ」「何かだけ」をよくすればいいという考えとは異なり、人も含め、生態系が豊か

になつていき…皆が幸せに生きられる道のように感じます。昨年からはジャンボタニシの働きにより、草刈りも不要だったので「奇跡の田んぼだね」なんて声も出ていましたが頭で考えても分からないような絶妙な調和ともいえるこんな奇跡も「敵にしない」「排除しない」という考え方によって、うまれたのかも知れません。「自分だけよければ」ではなく、しっかりと周りの調和を考えて、いかに周りと一緒に生きるか、楽しむか、幸せになるか…を大事にしていきたいものです。

奇跡の田んぼ?!

道のように感じます。

珠玉の一杯

福岡の古民家「聴福庵」の井戸が完成し、いよいよ初めての一杯。井戸から汲み上げた水は信じがたいほど澄み切っており、陽の光を浴びキラキラとまばゆい輝きを放っていました。

井戸水を鉄瓶に注ぎ入れると、その冷たさでたちまち鉄瓶の外側に水滴がつきはじめます。いつものように火鉢の炭に火を入れ、じつと静かに湯が沸くのを待つ間、浮かんでくるのはこれまでのこと。多くのご縁に恵まれ、仲間たち

との絆に力もらい、汗だくになりながら無心で掘り続けた二ヶ月間は感謝に満ちた時間だったように感じます。静かに沸き立つ湯気はどこか優しく、共に汗した皆の存在を感じさせました。そしてその味は、ほんのり甘く柔らかで、これまで味わったことのないほど奥深いものでした。



奇跡の連鎖が生んだ珠玉の味。忘れ得ない一杯を、次は皆様へ!

一期一会庵

日本人としての学び方

先日、福岡で取り組んでいる古民家養生の聴福庵にて伝統の左官職人による床の間の砂鉄塗講習を実施しました。この床の間の砂鉄塗というのは古来からの技術ですが今では大変珍しくその技術がほとんど消失しております。調合や塗り方など、伝統の左官親方が古民家の床の間で実地研修をしながら直接弟子たちに指導をする研修です。本来はこのような伝統の伝承の場に参加する機会もなく、私にとつては非常に有意義な学びの時間になりました。左官親方は職人さんたちの一人ひとりの持ち味や性格を見抜き、それぞれに必要なアドバイスやまた励ましをしていったのが印象的でした。そこには単なる技や能力を教えるのではなく、人間としてその弟子たちが健やかに成長していくのを見守っているようにも感じ、親方の愛情と仲間たちの親愛の情が折り重な

り、心温まる幸福な場になっていました。

編集後記

今月も竹取新聞をご愛読頂き、ありがとうございます。沢山のご縁のお陰様で今月も発行出来ました。いつも有難うございます。

今の時代は一般的な会社では上下関係があっても師弟関係などはありませんし、あくまで仕事とプライベートは分かれていきますから生き方や働き方まで指導してもらおうなどとは思ってもいない人が多いのかもしれない。何かあればパワハラなどと言われますから、お互いに遠慮してあまり深入りしないのが今の世の中の風潮です。しかし師の導きで道に入るというのは、その人の人生や生き方を変えるということですから師は弟子に真摯に深い愛情を注ぎますし、弟子はその偉大な愛情を受けて必死に育とうとします。師弟愛というのは伝承の要諦のように感じ、古来から続いている道としての日本の学問や伝承の在り方を見つめ直す機会になりました。引き続き、今回の体験を仕事に活かして生き方と学び方の実践を通して子どもたちにも伝承していきたいと思えます。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



株式会社 カグヤ

本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)